



1891年、アメリカで撮った南方熊楠

兎と亀との話

南方熊楠（みなかた くまぐす）

【元の文章です】

第一に小学児童が熟知^{よく}した亀と兎の競争の話について述べよう、これは『イソップ物語』に出たものだ。（中略）いわく兎が亀に会って自分の足疾^{はよ}きに誇り亀の歩遅きを嘲ると亀^{「た}対えてしからは汝と競争するとして里程は五里^{か+}賭は五ポンドと定めよう、さてそこに聞いている狐を審判役としようと言うと兎が承知した。因って双方走り出したが兎はもとより捷疾だから亀が見えぬほど遠く駈^かけ抜けた、ところで少し疲れたらしい、因って路傍の羊齒^{しだ}叢中に坐ってうとうとと眠る、己れの耳が長いから亀がゴトゴト通る音を聞くが最期たちまち跳ね起きてまた走り抜きやるつもりだった、しかるに余り悔り過ぎて眠り過ぎた間に亀は遅いものの一心不乱に歩み走ってとうとう目的点へ着いたので兎の眼が覚^さめた時はすでに敗けていた。